

## 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議（第４回）

### 議事概要

日 時：６月４日（木）１５：００～１５：１５

場 所：官邸２階大ホール

出席者：菅 義偉 内閣官房長官

和泉 洋人 内閣総理大臣補佐官

古谷 一之 内閣官房副長官補

五道 仁実 国土交通省水管理・国土保全局長

濱野 幸一 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

鎌田 光明 厚生労働省医薬・生活衛生局長

牧元 幸司 農林水産省農村振興局長

関田 康雄 気象庁長官

木村 聡 経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業政策統括調整官（代理出席）

平井 裕秀 資源エネルギー庁次長（代理出席）

青柳 一郎 内閣府政策統括官（防災担当）

議 題：既存ダムの洪水調節機能強化に向けた治水協定締結状況

概 要：

- 和泉内閣総理大臣補佐官から、会議の開催趣旨について説明があった。
- 五道国土交通省水管理・国土保全局長から、既存ダムの洪水調節機能強化に向けた治水協定締結状況について説明があった。
- その他、鎌田厚生労働省医薬・生活衛生局長、牧元農林水産省農村振興局長、木村経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業政策統括調整官、平井資源エネルギー庁次長、関田気象庁長官から発言があった。
- 最後に、菅内閣官房長官から、以下のとおり発言があった。
  - ・ 近年の水害の激甚化を踏まえ、国交省所管の５７０のダムだけでなく、新たに経産省や農水省が所管する電力や農業用水などの９００の利水ダムを加え、全国１４７０の既存のダムの容量を水害対策に最大限活用できるよう、縦割りの弊害を排除し、関係省庁一丸となって洪水調節機能の強化に取り組んできた。
  - ・ その結果、１級水系全体として、全てのダムの有効貯水容量のうち水害対策に使うことのできる容量を、これまでの約３割から約６割へと、倍増することができた。拡大できた容量は、５０年、５０００億円以上をかけたハツ場ダム５０個

分に相当する。

- ・ これから本格的な雨の時期を迎える中、国民の生命と財産を水害から守るため、関係省庁においては、治水協定に基づき、既存ダム of 事前放流など、国土交通省を中心に一元的に行う新たな運用を開始するようお願いする。
- ・ さらに、今月中に、今後の容量の更なる拡大に向けた工程表を策定し、2級水系においても、同様の取組を進めるようお願いする。

また、現在、A I を活用して降雨量やダムへの流入量を精緻に予測し、ダムの放水量も A I を使って予測する研究開発を進めており、早期に実用化できるよう関係省庁で全力をあげていただくようお願いする。

(以上)